

# Oracle Cloud Days Tokyo 2016

Digital AIDとクラウドがもたらすビジネスの明日

2016年10月25日(火) 26日(水)  
ウェスティンホテル東京



## D1-B1

10/25 (火) : 13:30-14:15

## セッションレポート

株式会社ジェイ・スポーツ | Modern ERP/EPM Summit



株式会社ジェイ・スポーツ  
経営戦略部  
田中 正嗣氏

### 会社の意思決定に貢献する予算管理により 「2,000時間効率化」という定量目標を達成 非効率なExcelの課題をPBCSで解決へ

衛星放送やケーブルテレビを通じたスポーツの放送事業を展開する株式会社ジェイ・スポーツ。同社は売上高の伸び悩みやスポーツ番組放送権料の高騰によって利益が縮小するという経営課題を抱えていた。同社経営戦略部の田中正嗣氏は「若者世代のテレビ離れが加速し、動画配信市場が拡大するなど、放送を取り巻く事業環境が厳しさを増すなか、当社の売上構成は放送事業に依存しています。経営課題を解決するには、放送外収入の拡大や新規事業の立ち上げといったポートフォリオの改善が急務でした」と振り返る。

課題解決を目指すJ SPORTSは「予実分析から課題の抽出、アクションプランの実行、計画の見直しまでのサイクル管理を強化して収益・利益の拡大につなげる」「将来を予測する見込数値を正確かつ迅速に経営陣へ報告できるフローを作る」「各部の予算管理業務を効率化し、営業活動や新規事業の立ち上げへ注力する」という3つの施策に取り組むことを目指し、その出発点として、これまでのExcelによる予算管理業務を脱却し、新しいシステムの導入によって業務効率化を進めることにした。



「例えば予算や見込数値の把握をするには、毎回、150以上のExcelファイルを、手作業で入力、集計、確認をする必要がありましたが、作業負荷が大きく、把握までに時間がかかること、また入力ミスや見逃しの発生も困難です。さらに、予実分析や過年度比較の際には、前年実績や予算、見込など複数のバージョンのExcelシートを組み合わせなければならないことも分析の遅れや施策の遅れにつながります。また会員数などの非財務情報は各部が個別に管理しており、必要なときに必要なデータを取り出す仕組みもありません。そのような要素が積み重なることで、株主・経営層に対するレポートの遅れや見込精度の低さにつながっています」(田中氏)

システム導入に先立ち、経営戦略部はまず、「2,000時間」という業務効率化の定量目標を立てた。この2,000時間を人件費換算すると約800万円に相当する。これをシステム導入の予算に当てることにしたわけだ。別の言い方をするとその2000時間を新規事業への取組など生産的な活動に費やすための時間削減でもある。併せて、①データ集計自動化によるスピード化と正確性の維持、②データ管理や分析業務にかかる業務工数の削減、③必要な時に必要なデータを取り出せる仕組みの構築という定性面の目標も立てた。

そして、複数の製品/サービスを比較検討した結果、「Oracle Planning and Budgeting Cloud Service (PBCS)」の導入を決定した。採用の決め手は「クラウドなのでコストが安いこと。Excelとの親和性が高く、ユーザーの使い勝手が良いこと。さらに機能の網羅性や豊富な実績の安心感でした」(田中氏)

Oracle Digital  
ご質問・ご要望に  
スピーディにお応えします。  
お問い合わせフォーム >  
お電話でのご相談はこちら  
0120-155-096  
(祝日及び年末年始休業日を除きます)

# Oracle Cloud Days Tokyo 2016

Digital AIDとクラウドがもたらすビジネスの明日

2016年10月25日(火) 26日(水)  
ウェスティンホテル東京



## D1-B1

10/25 (火) : 13:30-14:15

PBCSの導入は段階的に始まった。2015年のフェーズ1では財務領域における予算管理業務を対象に、2016年のフェーズ2では非財務領域における予算管理業務を対象に、効率化を推進。既存のExcelシートでの各種レポートの定型化、自動化を進めるとともに、データのドリルダウンや分析項目のスライスがExcel上でも容易に行えるユーザビリティ、Webやモバイルで確認できる出力機能などを備えた、だれもが使えるシステムを作り上げた。



株式会社ジェイ・スポーツ  
経営戦略部  
田中 正嗣氏



「フェーズ1では経営戦略部関連業務を2,000時間、フェーズ2では各部担当者・経営戦略部関連業務を420時間効率化し、定量目標をクリアすることができました」(田中氏)



Oracle Digital

ご質問・ご要望に  
スピーディにお応えします。

[お問い合わせフォーム](#)

お電話でのご相談はこちら  
0120-155-096

(祝日及び年末年始休業日を除きます)

上記、目標の達成に大きく寄与した具体的な業務改善例として以下などを挙げている。

### ① 帳票シートの集約

年度、部署ごとなどにばらばらの帳票だったのをひとつの帳票上で切り替え可能な帳票に集約。併せて、クリックで明細情報へのドリルダウンも簡単に可能となり、帳票作成が楽になった以外にも、閲覧性も大きく向上

### ② 計算ルールの集約

今までExcelでの帳票ごとに分散していた計算式がPBCSに集約されていることで、1箇所計算式を直すと全ての帳票に反映されるなどメンテナンス性が大きく向上

### ③ 組織変更や科目追加

階層の変更や値の追加・変更が簡単に設定できるだけでなく、全ての帳票に自動反映されることでメンテナンス性が大きく向上

### ④ 予実差異分析

従来は多大な時間をかけて作成していた予実差異のレポートをはじめ、様々な角度から分析をボタン一つで実現できるようになり、結果、業務効率が大きく向上

さらに、2017年以降には「現場」や「経営層」に使い易いシステムの構築を目指している。「フェーズ1、フェーズ2と段階的に開発を実施しましたが、会社全体でシステムを使いこなすレベルに達していません。これからは教育等も随時実施しながら、現場に対しては、予実分析や過年度分析が容易に行えるツールを提供すること、また経営層に対しては、事業活動の成果がひと目でわかる経営ダッシュボードツールなどを提供し、『変化に対応し、変化を機会と捉え行動する』という予算管理を目指していきたいと考えています」(田中氏)